

陳 述 書

令和5年 11月 28日

濱 智恵子



私は、今回の住民訴訟で原告となっている濱智恵子です。

私は今回問題となっている須磨多聞線道路の予定地とされている神戸市須磨区桜木町の自治会長を平成15年から令和3年までの17年間務めていました。

この陳述書では、須磨多聞線道路が桜木町をはじめとする地元やその住民にどれだけ影響を与えるのかについてお話ししたいと思います。

私が桜木町に引っ越したのは平成元年のことです。

それまでは神戸市中央区に住んでいましたが、子どもが高校に進学するのに合わせて現在の自宅であるマンションに引っ越しました。私の住むマンションは桜木町の中では東側の離宮道のすぐそばにあります。

私が引っ越してきた当時、私のマンションの北西は平屋のお屋敷でした。そのため、自宅のベランダからはそのお屋敷の日本庭園や離宮公園の森を見渡すことができ、夏には離宮公園の花火も見ることができました。

また、自宅の周辺をお散歩すると、四季の花が目につき、鳥の鳴き声やご近所からのピアノの音が聞こえてきて、とても穏やかな環境を楽しむことができました。

私はもともと須磨区や桜木町に地縁があったわけではありませんが、引っ越してきてからは「ええやん、ここ」と桜木町を気に入って過ごしていました。

そんな桜木町での穏やかな日々暗雲が立ち込めてきたのは平成7年1月17日に発生した阪神淡路大震災の後のことです。

震災の後、須磨多聞線の都市計画道路が事業認可されたことやこれによって西須磨がどうなるのかといったことに関する説明会が行われました。

その説明会で私が住む桜木町のど真ん中に高架道路が建設されると聞き、「えらいこっちゃな」と思って、「私には何ができますか」と発言したことを今でも覚えています。

これ以降、私は宗岡さんや堀さんとともに、須磨多聞線を巡って様々な活動に取り組んできましたが、このような活動を長く続けてきたのは桜木町というかけがえのない地域の環境やコミュニティが須磨多聞線の都市計画道路によって破壊されることが耐えられなかったからです。

桜木町の中心には桜木町市民公園という公園があります。

この公園は昭和27年頃からある公園で、震災後には放置されてジャングルのような

っていた時期もありましたが、地元の人達みんなで整備して大切にしていた公園です。

遊具は砂場ぐらいしかないのですが、公園の中心には椎の木があり、その椎の木では子供たちが木登りや、ひもを吊るしてブランコ作ったりして遊んでいました。その椎の木の下のベンチでは、子どもたちやママ友といったご近所のみんなが休憩に来てくつろいでいました。桜木町市民公園は地元住民のオアシスだったのです。

また、桜木町市民公園は自然豊かな公園でもありました。

自然観察員の方が調査のために桜木町市民公園に足を運び、ケイヌビワ、ノシラン、カシワといった桜木町市民公園の植物を標本として採取し、論文に発表したこともありました。

秋の桜木町市民公園ではマツムシの鳴き声を聞くことができました。マツムシは神戸市が「守りたい神戸の生き物百選」に認定している生き物です。この桜木町市民公園にいるマツムシをどうするつもりなのか神戸市に尋ねたこともありますが、明確な返事はもらえませんでした。

桜木町市民公園は桜木町の住民が行う行事の会場でもありました。

桜木町市民公園には地元の子供会が植えた梅の木があります。その梅の花が咲くときにはみんなで梅干しや梅ジュース作ったりする梅祭りという行事を毎年していました。

毎年の夏には、子ども連れが手持ち花火を持ち寄って一緒に花火をするささやかな花火大会をしていました。

公園の中の畑では地元の有志がナスやキュウリやトマトやサツマイモを作っていました。秋には子どもたちがそのサツマイモを芋掘りして、秋のお祭りの日に焼き芋にして食べたりもしていました。秋のお祭りでは、焼き芋を焼くだけではなく、子どもたちが風船を膨らませたり、演奏したり、ゲームをして遊んだりしていました。

桜木町の住民は桜木町市民公園で季節ごとの色々な行事を行っていたのですが、桜木町市民公園がなくなったら、行事をする場所がありません。実際に桜木町市民公園が閉鎖された後は桜木町市民公園でしていた行事はすべてできなくなってしまっています。

桜木町の住民は、須磨多聞線道路の建設のために桜木町市民公園がなくなるのを指をくわえて見ていただけではありません。

桜木町自治会では、神戸市長に対し、2004年、須磨多聞線用地を、市民公園を生かした公園遊歩道として暫定的に整備してほしい旨の要望書を提出しました。

続いて、桜木町の住民は、桜木町市民公園を残してほしい、道路よりも桜木町市民公園に近い緑の空間を作ってほしいと思い、そのためにはどんなことができるのだろうと考えました。

考えた結果として、公害のないまちづくりに取り組んでいるあおぞら財団のお力を借り、2008年から桜木町のまちづくりに関する住民提案を考える全8回のワークショップを実施しました。

このワークショップには多くの住民が参加し、神戸市側もワークショップに参加したいと言って前向きな姿勢を見せていたため、地元住民は自分たちの意見が桜木町のまちづくりに反映されることを大いに期待しました。そのワークショップの結果を報告書にまとめ

て神戸市に提出しました。

しかし、結局神戸市によって桜木町市民公園を閉鎖されてしまいました。この桜木町市民公園の閉鎖は桜木町の住民にとって大変な衝撃であり、地元住民の神戸市側の対応に対する不信感はより一層強いものとなりました。

須磨多聞線道路ができることによる桜木町の住民への影響はもちろん桜木町市民公園がなくなることだけではありません。

たとえば大気汚染も地元住民が懸念するもののひとつです。

先にお話しした桜木町市民公園では神戸市長に届ける個人署名とともに、子どもたちが市長宛の手紙を書いたことがありました。

その手紙を書いた子どもたちの一人に桜木町に住む小さな男の子がいました。その男の子は、道路ができて車通りが増えることによって妹の喘息がひどくなることをお母さんが心配していると話をしてくれました。その男の子自身も心配そうにしていたその顔を、私は今も忘れることができません。

また、須磨多聞線道路ができてしまえば、桜木町の景観も今とは全く変わったものになってしまいます。

須磨多聞線道路の高架道路は桜木町の住宅地のすぐそばを通ることになります。

たとえば私が住むマンションの3階であれば窓の外にすぐそばに高架道路ができることになります。窓を開けるとすぐそこに高架道路がそびえ立っているようになればその圧迫感に息が詰まります。

須磨多聞線は産業道路ですから夜間にもたくさんのトラックが走るようになります。

今までは閑静な住宅街だった桜木町は、須磨多聞線ができてしまえば住民の枕元のすぐそばを夜間も車が走り続ける、そんなまちになってしまうのです。

須磨多聞線の高架道路は桜木町の町全体の一体感やコミュニティも破壊します。

桜木町は割と狭い地域ですが、そこに36メートル幅で道路を作ることが予定されているのです。そのような大きな道路で西と東で半分に寸断されてしまえば、桜木町はもうひとつの町として成り立たないでしょう。

桜木町がもともと大きい道路と接していたり、高架道路の東西で町が違ふといった事情があれば違ったのかもしれませんが、桜木町という既存の町を高架道路が分断するのであれば町のコミュニティにも重大な影響が生じるのです。

そして、須磨多聞線の高架道路は桜木町の南端あたりで大きくカーブするように設計されています。

桜木町は北から南にかけて高度が下がっていく勾配がある地域です。ここに作られる高架道路を車が北から南に下っていくとそのカーブが待ち構えていることになります。

このカーブが作られる予定の場所のすぐ下には学童保育所があります。

もしも車がこのカーブを曲がり切れずにガードレールを突き破って下にでも落ちれば、その下はたくさんの子どものいる学童保育です。そうなれば子どもが巻き込まれる大変な大事故になるのではないかと、地元の間人は皆とても心配しています。

私たち地元住民の訴えもむなしく、須磨多聞線の高架道路の工事は今も刻一刻と進んで

います。

私の自宅の窓から西側見ると既に着工された高架道路の橋脚が見えます。

このまま須磨多聞線道路の工事が進めば、あの橋脚の上に高架道路が通ることになります。そんな道路が完成した風景を見る前にこの世からいなくなりたいな、神様に呼んでもらいたいなとさえ思いながら過ごしています。

以 上